

「 未来に向けて 」

『未来へ向けて』

すでにご承知の通り、平成27年度介護報酬改定は、これまでにない厳しい評価となりました。これまでのグループホームの歩みは、制度設立当初に掲げられました「尊厳の保持」と「その者の有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるようにしなければならない」という法的な理念の元に、認知症の状態であってもその有する能力に応じた支援がなされてきました。今日道内のグループホームの事業所数も1000に近づく勢



いで、その在り方も様々な形態があることも、厚生労働省主体で行われました、2年連続のグループホームの在り方における調査研究で明らかにされたところです。この度の報酬改定の結果を真摯に受け止め、3年後に控えた次期改正では、自分たちの支援の在り方を中心に、経営も含めた全体的

な質の向上を最優先とした覚悟を持って臨む必要がありま



す。今後の地域包括ケアシステムを円滑に進めてゆくためにも、地

域密着型サービス事業者同士の連携が求められ、新しい枠組みでの組織体制と組織運営を考える機会と考えています。これからは、小規模デイサービス、認知症対応型デイサービス、小規模多機能型居宅介護等、他の地域密着型サービス事業と共に「新しい地域の創成」へと取組むために、積極的に各種事業を行い「新しい組織の創成」を推進して参ります。

一般社団法人
北海道認知症グループホーム協会
会長 宮崎直人

日常の八心

一、おはようございますという
明るい心

二、はいという
素直な心

三、お元気ですかという
気遣う心

四、すみませんという
反省の心

五、私がしますという
積極的な心

六、ありがとうという
感謝な心

七、おかげさまでという
謙虚な心

八、相手の立場を自分におきかえてみる心

引用著書「早川浩士の常在学場」
著者 早川浩士（有限会社ハヤカワ
プランニング代表取締役）

平成22年に入居者7名が死亡した札幌のグループホームの火災事故があったことを覚えているだろうか。社長が業務上過失致死罪に問われ先日初公判が行われた。「ストーブの危険性を認識」、「火災予測できなかった」と真つ向から対立しているようだ。またこれらを機に275㎡以下のグループホームにもスプリンクラーの設置が義務付けられるようだ。夜勤一人体制も問われるようだが経営の圧迫がこれまで以上に余儀なくされる今回の介護報酬改定では善処は程遠いように思う。火を元から出さない継続的な努力はもちろんだがケアの質の向上への葛藤は少なくとも3年は続くようだ。だからと言って手をこまねているわけにはいかない、人が生きることを支援してゆく上で本当に大切なことは意外と介護保険の中よりもっと身近にあるような気がする。今回の公判や介護報酬改定は人が生きることへの支援を改めて問い直すよい機会にしたい。

編集後記とさせていただきます。 小原陽一

編集後記

大空と希望



一般社団法人北海道認知症グループホーム協会
広報誌「大空と希望」 2015年3月発行
〒060-0001
札幌市中央区北1条西7丁目 広井ビル3F
TEL:(011)208-3320 FAX:(011)204-7312
URL http://h-gh.net

「グループホームに迫る危機に一言」

北海道認知症グループホーム協会の会員の皆様、そして日頃より会務の運営に携わって頂いている役員の皆様いかがお過ごしでしょうか。名誉会長という職務を与えて頂きながら満足にお応えすることもできず申し訳ございません。この職務は会長をはじめとする執行部が大きく道から逸れないよう見守り助言する立場ですので、私の出番が少ない事が当たり前であり、これから先も私が一言申し上げるということは無いと思っていた矢先、グループホームに迫る危機について一言物申せとの事でしたので、ページを割いて頂くことになりました。この会報が皆様のお手元に届く頃には、グループホームの現場というよりは、経営者にとっては頭を抱える事態になっていることでしょう。ご存知のとおり介護報酬の見直しが行われ、新聞紙上では9年ぶりのマイナス改定と報道されていましたが、グループホームに至っては9年ぶりではなく、前回の改定でも、2ユニット以上で構成されるホームでは大きなマイナスになっていると言っても良いと思います。今回の基本報酬額を見ると平成12年の制度開始時より低い基本報酬額となっています。当時と比べれば様々な加算も増えていきますので、一概に低いとは言えませんが、国からは基本報酬が下がっても人員を厚く配置する等、事業所の努力を元に加算で挽回せよというスタンスがグループホーム以外の



サービスでは見受けられます。しかし、我々グループホームにおいては、挽回するための新たな加算は見受けられません。夜間支援体制加算にしても従前の夜間ケア加算から変更はありますが、今まで算定してい

ません。経費削減と言っても、暖房を止めることはできません。外出するとも言えません。今まで積み上げた介護のレベルを落とすことは、次回改定時にまた削減される口実を作られることにもなりかねません。また、日本全体を覆う介護職の人材不足があり、今回の改定でも処遇改善と声高に叫んで加算を拡充した実績を国は作りましたが、基本報酬の大幅削減で加算の算定をやめてでも人件費に手をつけないと維持できない事業所も出てくるでしょう。苦渋の決断で保険外部分の利用料の値上げをする、消費税分を反映していなかった事業所は転嫁せざるを得ない状況にもなるかもしれません。空床時の短期入所や共用型通所介護も視野に入れなければならないかもしれません。こうなってしまった以上、3年間は死守できるように対策を取っていかねばなりません。しかし3年後に上がる保証もありません。10兆円規模の介護保険費用が痛みを伴わず好転する術は無いのです。10年後には20兆円を超えるとされているのですから。今後、新オレンジプランや地域包括ケアシステムなど私たちに求められることは増えていくばかりです。一方でこのような介護報酬になると活動の幅が狭められてしまいます。当協会も同じような仲間との連携を強める事を考えてはどうでしょうか。今回の改定では多くの事業種別でマイナスとなり、悲鳴が聞こえています。北海道にも様々な事業者団体が存在しています。このような団体が横断的に団結していけるネットワークづくりが必要ではないでしょうか。北海道規模の各協会や団体が一同に顔を合わせ、互いに協力し、時には国や道にも意見を言えるような関係づくり。一事業者や一事業者団体の声ではなく、オール北海道団体、オール介護事業者団体で声を上げることも必要ではないでしょうか。利用者の方々が不安なく暮らすには職員の笑顔が必要です。私たちが倒れるわけにはいかないのです。そのために出来る事を皆さんと共に探して行こうではありませんか。

一般社団法人北海道認知症グループホーム協会
名誉会長 林崎光弘

平成26年度事例研究大会によせて

「グループホームが地域の希望に応える福祉村構想への実践」

26年9月15日 苫小牧市において実践研究大会が開催された。3分科会に分かれ27実践事例が報告された。

2000年から介護保険制度がスタートし、「認知症高齢者グループホーム」が組み込まれた。認知症ケアの最前線として高い評価を受け急増し900ホームを超えるまでになった。ホーム内の安全・安心から地域の人達にも何ができるかが求められ、今回～認知症になっても大丈夫な地域(まち)にするために～をテーマに開催された。

「地域包括ケアシステム」が提唱され、地域密着型に位置づけられた我々こそが、グループホームの持っている専門性や多機能を活かすことが求められています。今回静内ケアセンターが平成17年から取り組んでおります「福祉村構想」がまさしく地域包括ケアの実践例でありますことから基調報告いたしました。

～基調報告～ 2000年から認知症高齢者グループホームを日高管内の

第一号として開設し、家族的な介護を行い、一人ひとりの能力に応じ自立した日常生活を支援し、認知症の進行を遅らせホーム内の安全・安心に取り組んでいた。しかし、認知症の人が継続して地域で暮らす環境が整っておらず、グループホームへの入居希望が増えるばかりだった。

人も会社も地域の為の貢献が求められているが「何かを待つのではなく、行動する者が地域をかえる」の信念に基づき「福祉村構想」がスタートした。

グループホームの専門性や持っている機能を活かしつつ、認知症デイサービス、訪問介護、患者輸送、グループホームに入れな人達の住み替えの支援ハウス等が集積したエリアを形成し、連携している医療機関の訪問診療や訪問看護を組み込んだものが「福祉村」である。コンパクトで住みやすく、外出行動や社会参加が主体的にできる社会参加の可能な棲

家である。

グループホームに隣接した「支援ハウス」の支援は、グループホームが安否確認、服薬管理・食事の提供(配食)・ショートステイ、訪問介護事業所は、掃除／洗濯、デイサービスは日中のデイケアを提供・地域交流・ショートステイや一時預かり。同敷地内にある「多目的ホールゼラ」は、

認知症カフェや地域交流、音楽会、研修、サークル活動、葬儀等に使われている。医療の面ではグループホームと同様の訪問診療・訪問看護がうけられている。これらにかかる経費は一人当たり7万円～10万円である(要介護者のサービス利用量によって個人差ある)

これが静内ケアセンターにおける「福祉村構想」であり、現在3ヶ所目に取り組んでいる。認知症への理解、グループホームへの理解もまだまだであり、グループホームの持っている機能を活かし、グループホームの存在が正しく評価されるようにならなければ、介護保険制度の改正、介護報酬の正しい評価もない。

地域包括ケアシステムが平成24年から提唱されたが、認知症の人が4人に1人の時代となり、今こそグループホームの存在こそが不可欠であり、周囲、社会から認められる存在となるべきである。

グループホームが認知症の人の居場所ではなく、認知症も一つのパーソナリティと受け止める社会にしたいものであるし、本来の理想の「福祉村」とは、年齢や性別、疾病(認知症を含む)のある無しに関わらず安心して暮らせる場であろう。遠い将来にはグループホームが無くても暮らしていける社会の到来を願いたいものである。

(有) 静内ケアセンター

代表 下川孝志



詩

藤川幸之助

私に問いかけ続ける

その存在から

老いた母が

死とは

活きるとは何か

命とは何か

私に問いを投げかける

言葉のない母が

各ブロック研修

日程と開催都市(予定)

事業委員会担当

ブロック	時期	開催地	事業名	講師
札幌	平成26年8月28日	札幌市	癒されませんか?Part3	安部白道氏 平野雅宣氏
道央	平成27年5月20日	恵庭市	新人・中堅スタッフスキルアップ研修	宮崎直人氏
	平成27年9月	恵庭市	ターミナルケア研修	釜谷薫氏
空知	平成27年4月	岩見沢市	挨拶・礼儀などの接遇研修	日岡氏
道南	平成27年12月8日	函館市	計画作成担当者研修	釜谷薫氏
日胆	平成28年1月21日 ～22日	苫小牧市	実践リーダー研修修了者フォローアップ研修	宮崎直人氏 釜谷薫氏
十勝	平成27年8月下旬～ 9月頃	帯広市	「地域における認知症の治療とケアの連携」研修	内海久美子医師
道東	平成27年9月25日	釧路市	認知症基礎研修	佐々木幸子氏
道北	平成27年11月	旭川市	認知症研修① 「レビー小体とパーキンソン症状の関連性」(仮)	木村隆医師
	平成28年2月	旭川市	認知症研修② 「若年性認知症の方への取り組み」(仮)	武田純子氏
オホーツク	平成27年6月18日	北見市	リスクマネジメント研修Ⅱ	佐々木厚史氏

研修委員会担当

ブロック	時期	開催地	事業名	講師
空知	平成27年6月	滝川市	看取り研修	吉田はるみ氏
	平成27年12月	滝川市	日常生活リハビリ研修	菊地伸氏
道北	平成27年5月	旭川市	地域密着型施設研修「地域密着型施設と行政」(仮)	旭川市介護高齢課
	平成27年7月	旭川市	リスクマネジメント研修「介護現場のリスクマネジメント」(仮)	長谷守氏

実践者、管理者、実践リーダー研修 日程と開催都市(予定)

認知症介護実践研修 (実践者研修)

- 第1回(札幌市)**
平成27年5月12日～15日及び6月4日
第2回(旭川市)
平成27年6月9日～12日及び7月2日
第3回(岩見沢市)
平成27年7月28日～31日及び8月20日
第4回(苫小牧市)
平成27年9月8日～11日及び10月6日

認知症対応型サービス事業 管理者研修

- 第1回(札幌市)**
平成27年6月4日～5日
第2回(旭川市)
平成27年7月2日～3日
第3回(岩見沢市)
平成27年8月20日～21日
第4回(苫小牧市)
平成27年10月6日～7日

認知症介護実践研修(実践リーダー研修)

- 第1回(帯広市、音更町)**
第1週目平成27年6月22日～6月26日
第2週目平成27年7月6日～7月10日
報告まとめ平成27年8月18日
第2回(岩見沢市)
第1週目平成27年10月5日～10月9日
第2週目平成27年10月19日～10月23日
報告まとめ平成27年12月7日
第3回(札幌市)
第1週目平成27年11月16日～11月20日
第2週目平成27年11月30日～12月4日
報告まとめ平成27年1月12日



日程等変更になる場合がございます。詳しくはHPをご覧ください。

その他の研修 日程と開催都市(予定)

第1回自主研修(札幌市)

「さあ！これからの認知症の話をしよう」
宮崎直人氏
平成27年8月5日
第2回研修(札幌市)
「人を活かす！ディズニー流人材育成の魔法」
香取貴信氏
平成27年11月11日

第3回研修(札幌市)

「さあ！命の本質について語ろう」
坂東 元 氏(旭山動物園長)
平成28年2月18日

道南ブロック『作れる間、私は大丈夫』

当

事業所には、5年前からお正月に欠かせないご馳走がある。

ホッケやサケ等の魚に、ダイコン、ニンジン等の野菜とご飯、麴を混ぜて発酵させる保存食の『飯寿司』である。北海道南西部、日本海に面した当事業所には飯寿司作りの名人がいる。冬の便りと共に始まる漬け込み作業の指揮を執るのは90歳のIさん。5年前、入所当初のIさんは、会話も歩行



も困難で寝たきりに近い状態。その後、少しずつ回復はしたものの、根本的な生きる気力が失われていた。ある時、ボランティアに來られた方の情報から「Iさんは地元で評判の飯寿司作りの名人だった」ことが判明。そこで「作り方を教えて」と持ちかけると、口数の少なかったIさんが大きな声で、「私の飯寿司は美味しいから売れるよ！」と答えた。実は、元気だった頃は自宅で



許可を取って製造・販売までしていた正真正銘のプロだったのだ。

漬け込みの日、Iさんはプロの勘を取り戻し、手袋、マスク、消毒など衛生管理を

徹底して大きな樽に材料を仕込んだ。手際良く、鮮やかに、まさに水を得た魚のようであった。1ヶ月後、地域の人たちに出来上がった飯寿司を配ると「美味しい、昔ながらの味、教えてほしい」と大反響を呼んだ。Iさんの自信と笑顔に溢れた顔は今でも鮮明に覚えている。生きがいづくりは認知症ケアの大きなテーマであ



る。人それぞれ得意分野は違うが、自分の作った食物を誰かがおいしいと喜んでくれたなら、どれほど生きる力になるか。この充実感は何よりの特効薬かもしれない。また、この事は一人の入居者の生きがいを取り戻しただけでなく、町の食文化の伝承、地域との連携につながった。

年々、体力や集中力が低下し野菜や魚の大きさにばらつきが出るものの、気持ちと表情は変わらない。『作れる間、私は大丈夫』また作れるように頑張る』とい

う気持ちを1日1日積み重ね、たくさんの待っている人たちのために、今年もIさんは飯寿司を完成させた。最後に、私の義母は飯寿司が大好き。私を今時珍しい『飯寿司を作れるお嫁さん』に育ててくれたさんに心から感謝している。



道南ブロック

後志ブロック内における管内SOSネットワークとの連携

北海道認知症グループホーム協会に多くが加盟する余市グループホーム連絡協議会の管内SOSネットワークとの連携実践を報告したいと思います。

①所在不明者発生時における検索ネットワーク組織化の目的。
＊グループホームという事業所の日常的人員は少数であり、そこにおいて所在不明者が発生したとしても事業所単独検索という自助努力にも限界があり、また冬期であれば特に後志という豪雪地帯においては、入居者の方の一刻を争う検索の機動性を必要とします。このためお互いが抱える問題を相互協力という形で乗り越えて行こうという考えで検索活動のためのネットワークを組織し、これまで毎年検索訓練をしています。

また検索連絡のロスタイムをなくしていくために、それぞれの事業所の検索ルートを決めてあります。このことにより検索依頼の連絡は11事業所完了タイム、約15分です。

②管内SOSネットワークとの連携

＊管内SOSネットワークとの連携は広範囲な検索も必要であり、発生事業所の責任者から検索依頼を出すことになっています。

＊また他施設（GH外）或は在宅より所在不明者が発生した場合におけるSOSネットワーク連絡網に「余市グループホーム連絡協議会」も入れて頂き、発生時には協議会事務局に連絡が入り、事務局から加盟事業所に連絡が流れるようにしています。

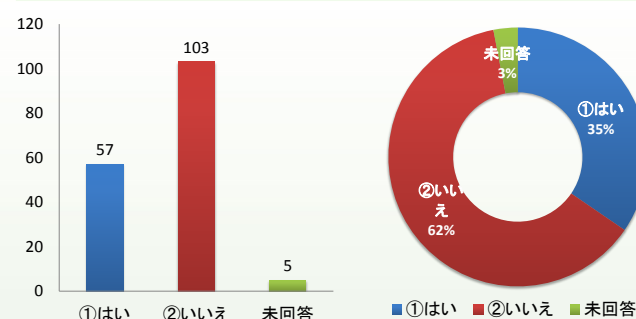
後志ブロック

平成26年度アンケート調査結果(一例)

ホームページに公開されます。

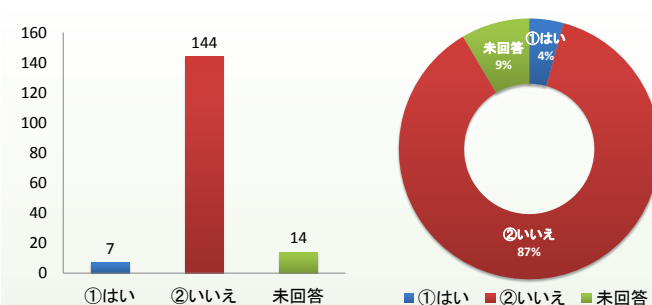
「平成26年度 個別アンケート調査」集計結果 事業主・管理者様対象

21. 職員数の充足感はありますか。



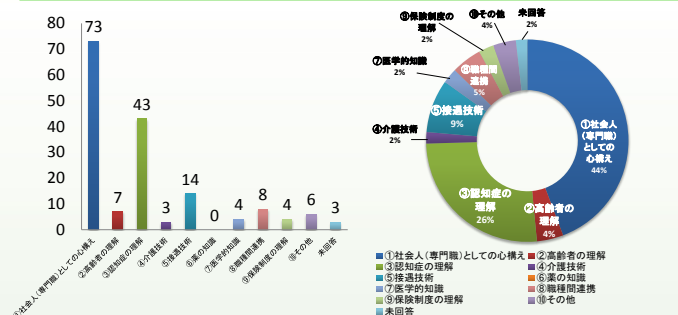
「平成26年度 個別アンケート調査」集計結果 事業主・管理者様対象

31. 現在の介護報酬に満足していますか。



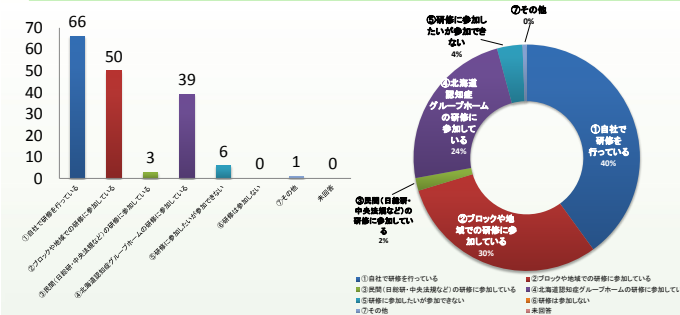
「平成26年度 個別アンケート調査」集計結果 事業主・管理者様対象

33. 介護報酬のアップはサービスの質の向上を求められますが、もっとも何が必要だと思いますか。



「平成26年度 個別アンケート調査」集計結果 事業主・管理者様対象

34. 上記項目向上のため、研修が必要と思われますが、以下のうち、もっとも行っていることはどれですか。



札幌ブロック「癒されませんか」PART2

札幌ブロックの恒例イベント(?)となりました自主研修会「癒されませんか?」のPART2が、平成26年8月29日にさっぽろテレビ塔2階で開催されました。今回は、大通幼稚園理事長でフリーアナウンサーの藪淳一氏の「幸せを呼ぶコミュニケーション」、札幌市保健所長の館石宗隆氏に「認知症の人に寄り添う ケアの現場から」と題してご講演をいただきました。まず、藪氏の講演についてアンケートからふり

返ってみると…「さすがアナウンサー。声のトーンといい、話し方といい、とても引き込まれました。癒されて寝てしまったらどうしようかと思っていましたが、眠気どころか話を楽しく聴くことが出来て大変良かったです。」「コミュニケーションの奥深さを感じた。自分は聞き上手と思っていたが、講義を聴いて恥ずかしくなった。普段から、うなずき、あいづち、目、表情、姿勢を意識して自分を磨いて行こうと思います。とても聴きやすく、分かりやすい講義でした。演習があったのも良かった。」北海道新聞に載った開催案内を見て参加された一般の方からも「今日



のお話は日常生活でも大変勉強になりました。あつという間のひと時でした。」と感想をいただいています。また、館石氏の講演からは…「認知症に対して初心にかえって考えることができました。認知症ケアをより深く考えたいです。他の施設のスライドもとてもためになりました。」「最後のグループホームの写真を見たときに、今自分の施設に何が足りないのか、わかったような気がするし、かなりショックだった。」他にも「すばらしい講師の方々でした」「この研修に参加できることが癒しです」などなど、たくさんの意見、感想が寄せられました。研修後には講師のお二人にも参加いただき、同じくテレビ塔の2階で、懇親会を行っています。ゲームや自己紹介で会場の雰囲気もなごみ、楽しいひとときを過ごすことができました。札幌での認知症介護実践者研修、実践リーダー研修は各1回開催しています。認知症介護実践者研修は5月27日から6月19日まで、札幌市産業振興センターで、講義・演習4日間、外部実習1日、職場実習2週間、実習報告とまとめ1日の日程で修了しています。認知症介護実践リーダー研修は、10月20日から12月15日まで、札幌千代田ビルで講義・演習10日間、外部実習3日間、職場実習4週間、実習報告とまとめ1日を無事終了しています。来年度もこれまでの企画同様、皆さんが癒されるような自主研修会「癒されませんか?PART3」を開催予定です。多くの皆様の参加を呼び掛けていきたいと思っています。

札幌ブロック 長谷川 千明

道央ブロック「スキルアップ研修」

道央ブロックでは、6月10日(火)に北海道認知症グループホーム協会 会長 宮崎直人氏により新人・中堅スタッフを対象にスキルアップ研修を実施いたしました。参加者は定員を上回る70名の方が参加いたしまして、『めったにきけない認知症と人の話』『最後まで人となりを大切に生きていけるように』と題して、グループホームで生活している人の支援と認知症に対する支援についての内容に、基本である『人』をしっかりと捉え支援を実行したいという感想を複数いただきました。専門性を発揮しようと、いつのまにか認知症に対してのケアが中心に考えられていたことに気づかされた研修会でした。8月1日(金)には、有限会社ライトマインド 総合施設長であります、釜谷薫氏をお迎えして「リスクマネジメント研修会」と題しまして研修会を実施いたしました。27年度には、ターミナルケアについての研修会を釜谷先生をお迎えして開催する予定でございます。協会からブロックの活動資金を補助して

いただくことで、ブロック内における事業所のキャリア形成の促進のために

と、ブロック内の協会の会員が集まり研修会の企画・実施などをする機会ができました。研修会に参加いただいた方との交流機会となり、ブロックの活動の活性化に繋がっていくことと感じます。

道央ブロック 事務局

グループホーム こもればの家

